



第499回機振協セミナー

主催：(一財)機械振興協会 技術研究所

協賛：全国ロボット・地域連携ネットワーク (RINGプロジェクト)

フィジカルAI×多用途ロボット躍進 の本質から読み解く次の展開

2025年は、フィジカルAIと、その物理世界へのインターフェースとなる汎用ロボット（ヒューマノイド、セミヒューマノイドなど）が本格的に躍進した一年だったと言えます。米国ではロボット基盤モデルの進化によって自律性が飛躍的に向上し、中国では成熟したサプライチェーンを背景に量産体制が立ち上がるなど、市場はこれまでのヒューマノイドブームを大きく上回る活況を呈しています。こうした動きにより、長らく課題とされてきた「実証止まり」から「商用化」への移行が、いよいよ現実味を帯びてきました。

一方で、日本は精密機械・精密制御や部品技術といった強みを堅持しつつも、豊富な資金を背景に発展を続けている米中に後れを取る構造がより鮮明となっています。本セミナーでは、2025年に顕在化した主要動向を整理するとともに、今後の産業構造や競争環境を見据えた展望を提示します。

さらに、AIの進化によって急変するロボット産業の将来像を描き、日本の競争力を維持・強化するために設置された有識者会議である、経済産業省「AIロボティクス戦略検討会議」についても紹介します。

<講師>

PwCコンサルティング合同会社 執行役員 パートナー

瀬川 友史



6月22日(月) 15:30~17:00

- WEBシステムによる開催 (Zoom) 事前申込制 (定員50名 参加費無料)
- お申し込み方法

<https://www.jspmi.or.jp/seminar499th/>

または下記コードよりお申し込みフォームへアクセスし、6月17日(水)までにお申し込みください。

ご提供いただく個人情報は、当協会セミナー、講演会及び展示会関連等の事業以外に使用いたしません。

WEB会議中の画面録画や録画した映像の転載は禁止させていただきます。

